

海外研究支援プログラムにより、2018年10月1日から2018年11月23日までスペインのアリカンテ大学(物理・システム工・信号理論学部)の応用音響研究室にて研究を行なっている八田です。今回は現在進めている研究に加えて大学内の様子をご紹介します。

研究について

現在私は上記のアリカンテ大学にて、掃除機音の主観評価実験を行なっています。この研究の目的は、近年市場に出たばかりのロボット掃除機の運転音がユーザの心理状況の違いが不快さにどのように影響するかを明らかにすることです。

従来型掃除機はユーザの自己意志で操作していました(能動的状況)がロボット掃除機は掃除機が自動で稼働する(受動的状況)ため音の変化など予測不可能です。そのため騒音をより不快に感じると考えられます。

実験では同じ音源を評価しなければならないためロボット掃除機を用いての能動的状況を再現する実験は困難です。そこでスティック掃除機を用いて録音をすることで心理状況の差を再現しました。

スペインの学部3年生20人に実験に協力をしてもらいます。

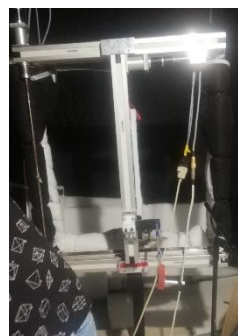


研究室について

お世話になっている応用音響研究室(Applied Acoustic Lab.)は主に様々な機械製品、部品の音質評価や伝達関数の測定、設計を行なっている研究室です。土木学科と共同で研究も行っています。

研究室には様々なマイクロホンがあり、中には自動で指定した測定位置を移動するロボット付きのマイクロホンもありました。実際に見てはいませんが、水中における音の測定も行うようで、巨大なプールのような実験室で実験を行なうこともあるそうです。

現在は教授とドクター2名の方が数多くの研究をされています。



アリカンテ大学について

アリカンテは日本ではあまり知られていない土地ですが非常に綺麗な地中海沿いにあります。食事もおいしく、何よりお米(パエリア)が食べられるので他のヨーロッパ国より日本人は生活しやすいのではないかと感じました。

アリカンテ大学は少し内陸のほうに広大なキャンパスがあり、工大の数十倍の敷地を有しており、58学科あります。昼過ぎになると多くの学生が芝生の上で昼寝(シエスタ)をしていました。

研究のため研究室にしか出向かなかったのですが、アリカンテ大学はスペイン語を学ぶ日本人の学生を多く受け入れているそうです。

そして実験機材を運ぶ際にエレベーターを使用して驚いたのですが、こちらでは地上が0階となっており、閉ボタンがありませんでした。

初の海外生活で様々な生活文化の違いを体験できたので次回は生活についてまとめます。



大阪工業大学



アリカンテ大学

